

Quick調査レポート「訪日外国人旅行者の受け入れに関する調査」

Topics

- 勤務先施設に「訪日外国人旅行者が来院したことがある」と回答した医師は62%。
- 訪日外国人旅行者が来院した場合、91%は自施設で対応していたが、コミュニケーションと診療にかかる時間が問題となっていた。
- 今後、訪日外国人旅行者を積極的に受け入れると回答した医師は21%にとどまり、これまでに訪日外国人旅行者の「来院経験あり」群で28%、「来院経験なし」群ではわずか8%となった。
- 訪日外国人旅行者を受け入れるために必要なこととして、「職員の語学研修」「通訳アプリ」「外来での外国人向け説明資材」「外国語に対応可能な職員の雇用」など、言語／コミュニケーションに関する項目が上位に並んだが、「医療制度や受入可能な医療機関についての公的案内サービス」など、公的な支援に対するニーズも確認された。

調査背景・目的

訪日外国人観光客は年々増加し続けており、2016年には過去最高を記録した。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向け、医療の提供についても、外国人旅行者の受入体制の整備が望まれる。

今回は首都圏のGP一般内科の医師を対象として、外国人患者の受入状況等を確認した。

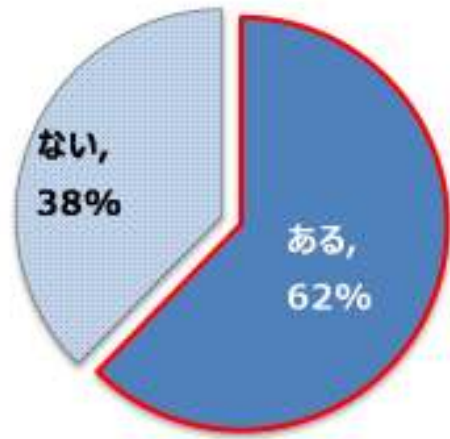
調査概要

調査方法： インターネット調査 ＊クイックサーベイ
ボリューム： 5問
調査地域： 首都圏
調査対象： GP一般内科（19床以下）
有効回答数： 130サンプル
調査期間： 2016年11月21日 ～ 11月22日
調査主体： 株式会社アンテリオ Quick Survey室

訪日外国人旅行者の来院経験

<単一回答>

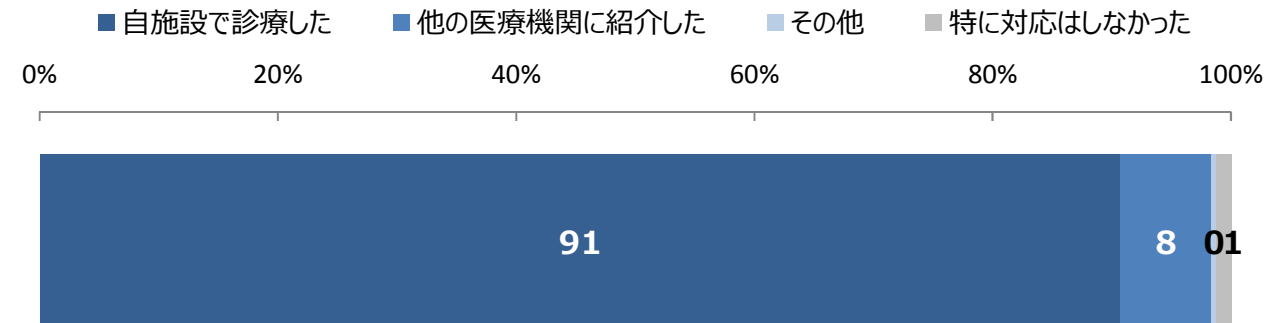
n=130



訪日外国人旅行者が来院した際の対応状況

<数値記入>

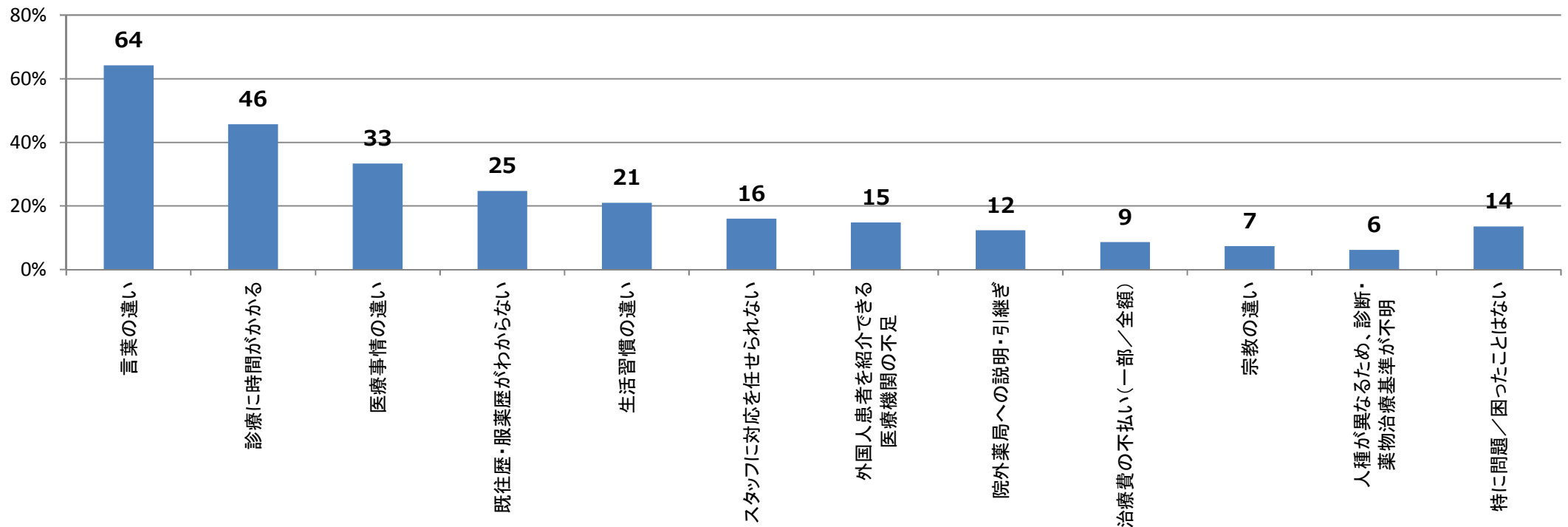
n=81



訪日外国人旅行者への対応における問題点

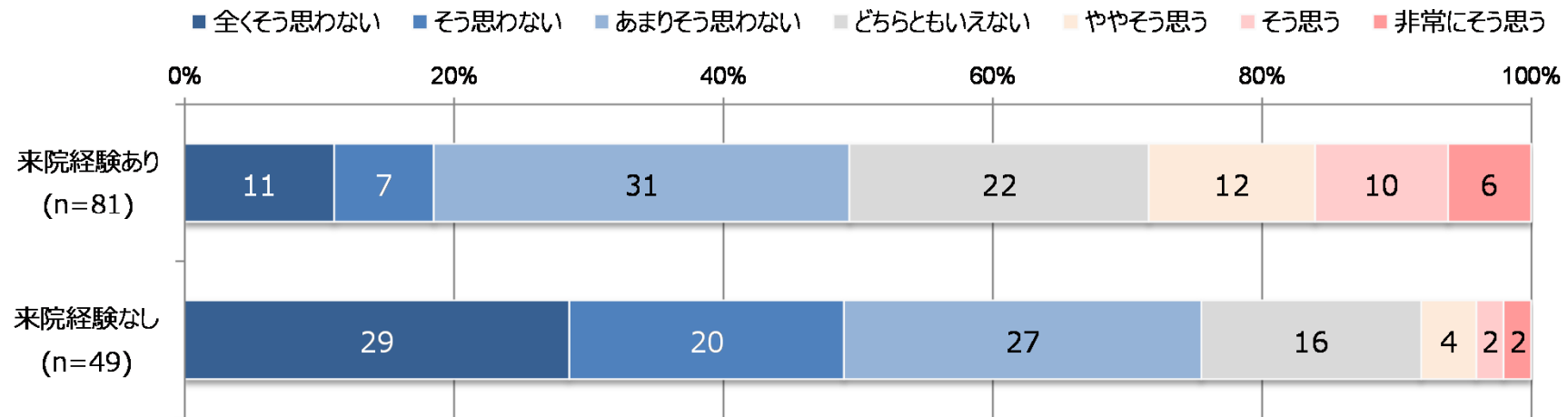
<複数回答>

n=81



今後、より積極的に訪日外国人旅行者を受入りたいか <単一回答>

n=130



訪日外国人旅行者の受入に対応するために必要なこと <複数回答>

n=130

